

## 1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期指標】

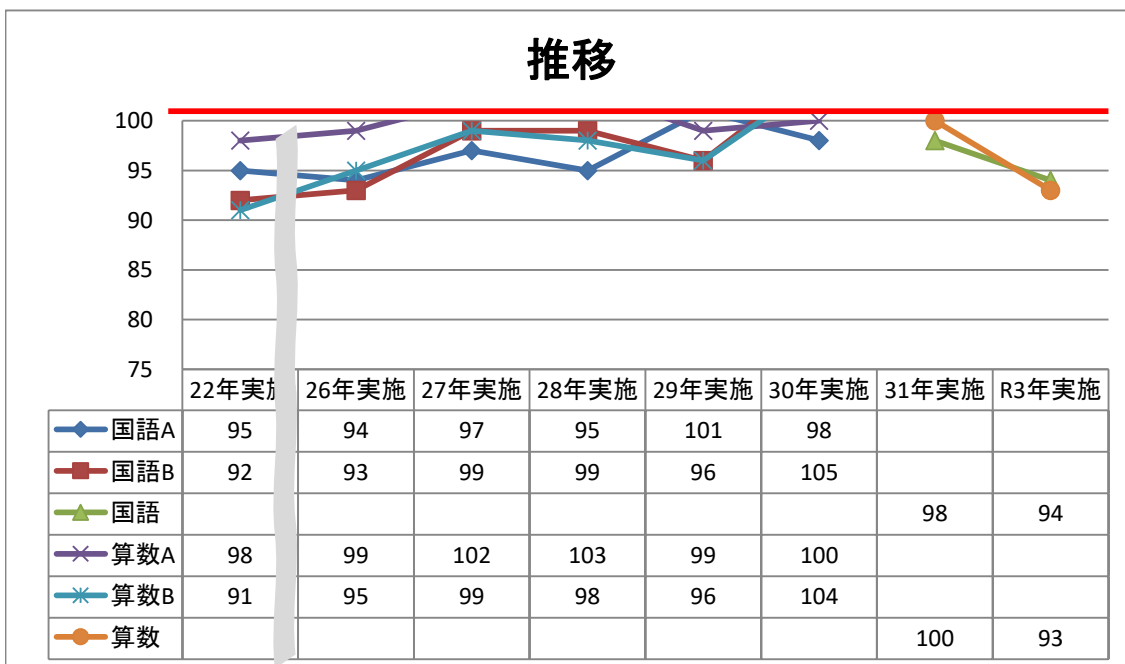
全国調査の標準化得点                      国語100                      算数100

## 3.指標に向けての取組

- 朝のチャレンジタイムや学期末の漢字検定・算数検定実施
- 基礎・基本の確実な習得を目指し、複数体制による算数指導を実施し、テスト後は、「補充の時間」を設定
- 家庭学習時間「10分×学年数+10分」を徹底し、提出率90%以上を目指す。
- 国語科においては、読解力を育む継続的な読み取りの時間を設定

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	94	93
嘉麻市	95	96
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

## 5.各学校における分析

□国語科については、昨年度末から一定期間内に読解力を育むため、読み取りの時間を設定し、複数体制で取り組んできたが、日々の授業で継続した取組ができていなかった。  
□算数科において、単元テストの結果を踏まえた補充学習を実施し、複数体制による算数指導を実施してきたが、家庭学習で学習習慣を身に付け、学習内容を定着させることが不十分だった。  
□CD層にいる児童への個別支援が全校での組織的な取組になっていなかった。

## 6.各学校における今後の取組

□どの学年においても、国語においては、読解力を育む継続的な読み取りの時間を設定する。《新規》  
□家庭学習時間「10分×学年数+10分」の徹底を図るとともに、内容を見直し、学習習慣の定着を図る。《新規・継続》  
□授業アンケートや単元テストの通過率などのデータをもとに、授業改善を行う。《新規・継続》  
【CD層の児童に対する取組】  
□どの学年においても、算数においては、単元テストの結果を踏まえた複数体制での習熟度別授業と総括的診断テストの実施 《継続》  
□6年生を重点にした取組を継続し、算数の授業では2分割授業を常に行う。さらに、空いている専科があれば、2人体制で分割授業が行えるように割り振りを行う。《新規・継続》

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。

- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるための短期スパンのPDCAサイクルについて指導・助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 同一集団の学力や学力層の推移に着目しながら、学力向上策の評価・分析を行い取組の検証改善を図るように指導・助言する。
- 校内研修や学校訪問において、「書く活動ポイント9」の活用を促す等、思考を伴う書く活動の徹底指導を図るように指導・助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導・助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての交流や指導・助言を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。